

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

福 福

日付 平成 20年 3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このグループホームの運営理念は「人と人との和を大切に明るいホーム作りを目指します。地域に親しまれる地域に密着したサービスを提供します。安全で快適な暮らしをサポートします」とあり、平成20年度品質目標として「地域密着の下に近隣の方々との和を築き、地域に溶け込めるグループホームを作りを目指す」が掲げられていた。そして、平成20年度のサービス計画が示されていた。長期的サービス計画「笑顔で心地良く過ごせる生活」、中期的サービス計画「個人を尊重しながらも、共同生活を楽しく過ごしていける家庭的な雰囲気づくり」、短期的なサービス計画「個人の趣味や個人の役割(仕事)を持っていただき、自分のペースで生活できる支援」が立てられていた。

理念があり、それに対し目標を作り、そして計画を立てて、職員の行動指針を示している運営体制を言葉で示しているグループホームは始めて見る事ができた。これをグループホームのリビンググループムに入るところに掲示し、ホームに出入る利用者・家族・地域の人々・関係者に明示している姿勢は素晴らしい事業所だと思った。このホームは平成17年7月に設立して、訪問調査に出向いた平成20年3月時点で凡そ2年8か月余りである。

短期～長期計画に記述された内容は、利用者が楽しく過ごしているし、利用者の言った事、希望を知った事をすぐに実現している。先日も奥津振興局がギフ蝶の飼育をしているという記事が山陽新聞に掲載されたのを利用者が見て、奥津町の財産だから見に行きたいという希望を聞いて、早速ドライブがてら奥津町まで行って、みずの郷「奥津湖」で食事をして帰ったそう。そして次に別のユニットからもドライブに行った。誰でも自分の気持ちを言い、それを実現し、皆が楽しめるホームを作っている姿であろう。

私は、人間の機能を次のように考えている。 生きる機能 食べる、排泄する、動く。 人間として生きる機能 会話をする、人とことを考える、人のために役立てる。 自分らしく生きる機能 自分の気持ちを自由に言える、その希望を実現できる、自分の能力を伸ばす。 3つの人間の機能を発揮するためには、上記9つのことが出来れば、殆んどのが叶うと考えており、この事はどんな人でも同じことである。例え認知症の人でも同じことで、これを実現していける権利を持っていると考えるので、グループホームの利用者も同様である。このグループホームの理念・目標・計画を見ると、これらが叶えられる体制を備えていると感心した。

このホームは代表者・職員・利用者・家族・地域が一体となり、住み心地の良い生活を築いていこうとしている。職員も安定している。利用者は地域の人が多い。地域密着型サービス事業者とし

特に改善の余地があると思われる点

介護計画と記録から利用者の生活とその人の機能に密着したシナリオと足跡が読み取れるよう、介護目標と介護項目の設定の仕方を再検討してもらい、もう一步踏み込んで考えて欲しい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念とその目指しているところを実現するために目標と計画を着実に実施しているので改善の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームの運営理念は、開設時に代表者と管理者で検討して決めたそうだ。利用者・管理者・職員共、開設時から殆んど顔ぶれが同じなので、3年近くを経過した今も、その思いには全くぶれがなく、一層深化している。会社を運営する代表者は、地域に貢献できる事業をしたいという気持ちが強く、今の地域でのグループホームが実現した。何事にも『和』を重んじ、利用者同士の和、職員の和、家族の和、それら相互の和を大切にしながらホームを運営していくことが叶えられようとしている。そして地域との和もどんどん深耕している。素晴らしい事業が生まれようとしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：周辺の環境、ホームの立地環境、そこに建つホームの施設と設備など申し分ない。ハードの空間と共に、利用者と職員が形成しているソフトな空間が加わって、始めて生活空間と言える。</p> <p>2、全体的に見て…：いい天気誘われて「散歩に行こうか？」重度化が進み、散歩はマンツーマンの個別支援となった。ホーム周辺には田畑が広がり、所々に民家、遠くには里山が見える絶好のロケーションで、道端には、たんぽぽ・つくし・オオイヌのゴグリと春を告げる草花が咲き、気持ち良さそうに蝶が舞っている。民家の庭に咲く桃や桜、水仙を見ながら歩くのも心地良い。代表者の畑も近くにあり、利用者はこの収穫を楽しんでいるそうだ。こんな自然の中で、季節を感じるゆとりの日々は、利用者によすらぎを与える。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：重点的なケアについては、日々改良していく必要性は職員では感じている。現在の業務の進め方の中で一つひとつ向上に結びつく改良を積み重ねていけば良い。</p> <p>2、全体的に見て…：骨折した病院で寝てばかりしていた人が、その人の生きがいを見出してあげようと職員の関わりから、歩行器で歩けるようになり、家事の手伝いするようになった。無表情で会話もなく怒りっぽい人が、職員の心温まる声かけやその人の尊厳を大切にしている姿勢に、自分の思いを言うようになり、花見に行った時には、皆と一緒に歌を歌って賑やかに過ごせるようになった。自分の出来なくなった事ばかり考えていた人が、ホームの人の行動を見て、自分にもできる事があると気づき、生活に張りを持つようになった。職員の心の通いによって『人間回復』を実現している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営推進会議にも多彩な地域の代表や行政の人が集まって、有意義な会議になって、地域との交流が益々活発になり、地域貢献している。</p> <p>2、全体的に見て…：両方のユニット毎に「たより」を毎月発行して家族や関係先に配布している。「通信を見せただけだに「ありがたいなあー！」と感謝の気持ちで一杯になります」「笑顔で迎えてもらい、大きな安心を胸に帰宅しております」「通信を拝見し、いつも親父が写真に写っている姿を見て、色々な行事があったり、時々には遠出したり、元気そうで安心しています」「入院後少し精神的に落ちてきて、頭が少ししっかりするようになり、現在いる場所が近くなので、すぐに家に帰れる願望が強くなりましたが、時々家に連れて帰って下さるので、本人も安心しています」という言葉が、介護計画の同意書に書かれており、家族との信頼関係が表われている。</p>		